

令和5年度第3回
小林市地域公共交通活性化協議会・小林市地域公共交通会議

日時：令和6年2月15日（木）14：00～15：30

場所：小林市役所 第1別館大会議室

◆会議次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 報告

- (1) 令和5年度第2回小林市地域公共交通活性化協議会・小林市地域公共交通会議における書面協議の結果について

「令和5年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー計画）に関する事業評価について」

別紙1

4. 議事

- (1) コミュニティバスの運行見直しについて 【資料1】

- (2) デマンド型交通実証運行事業について 【資料2】

当日配布資料 ・ 運行事業者との協議結果

別紙2

・ 利用者アンケートの結果

別紙3

5. その他

- ①交通と福祉の連携について（事務局）

別紙4

- ②バス利用者の状況について（宮崎交通）

6. 閉会

令和5年度第3回 小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 委員名簿

No.	区 分	所 属 団 体 名	氏 名	出 欠	
1	(1)総合政策部長	小林市 総合政策部長	山下 雄三	○	
2	(2)一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	宮崎交通株式会社小林営業所 副所長	平川 由紀	バス業務部副部長 吉田 武	
3	(3)一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者の代表	一般社団法人宮崎県タクシー協会小林支部 支部長	後口 昌賢	支部長代理 赤崎 望	
4	(4)社団法人宮崎県バス協会の代表	一般社団法人宮崎県バス協会 専務理事	上平 賢一	欠席	
5	(5)旅客鉄道事業者の代表	九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社 副支社長	前田 秀作	欠席	
6	(6)住民 又は利用 者の代表	民生・児童委員代表	小林市民生委員児童委員協議会 理事	龍神 豊美	○
7		商店街代表	小林市商店連合会 会長	兒玉 龍之介	○
8		障害者代表	小林市障害者福祉連絡協議会 事務局長	舞田 慶一郎	○
9		高齢者代表	小林市友愛クラブ連合会 総務部長	福永 友一	○
10		須木地区 住民代表	すきむらづくり協議会 会長	富永 圭一	欠席
11		野尻町地区 住民代表	輝けフロンティアのじり 会長	木下 恒吉	○
12		西諸地区公共交通を 守る会代表	西諸地区公共交通を守る会 事務局長	弓削 恵一	欠席
13	駅周辺住民代表	吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会 会長	吉村 秀昭	○	
14	(7)九州運輸局宮崎運輸支局長が 指名する者	九州運輸局宮崎運輸支局 支局長	古賀 秀策 ※活性化協議会ワザ・ザ・パ-	首席運輸企画専門官 田中 宏毅	
15	(8)一般旅客自動車運送事業者の事業 用自動車の運転者が組織する団体の代 表	宮交タクシー労働組合小林支部 支部長	田村 直和	○	
16	(9)道路管理者、宮崎県警察、 学識経験者、その他市長が 必要と認める者	宮崎県総合政策部総合交通課長	佐野 晃浩	欠席	
17		小林警察署交通課長	高妻 一樹	欠席	
18		小林市建設課長	柿木 博敬	○	
19	事務局	小林市企画政策課長	辛島 潤也	○	
20		小林市企画政策課主幹	古沢 博文	○	
21		小林市企画政策課主査	西 直人	○	

企 第 4 2 8 号
令和 6 年 1 月 3 0 日

九州運輸局長 殿

住所 宮崎県小林市細野 3 0 0 番地
協議会名 小林市地域公共交通活性化協議会
代表者名 会長 山下 雄三

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の提出について

令和 5 年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価を行いましたので、別添の
とおり報告します。

担当部署: 宮崎県小林市総合政策部企画政策課
担当者名: 主査 西 直人
連絡先: 0984-23-0456
E-mail: k_kikaku@city.kobayashi.lg.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 小林市地域公共交通計画

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内ライダーシステム)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小林市	小林―上九瀬線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標7765人に対して8355人であった。	須木区域唯一の路線であり、通学で利用している利用者がいるため、維持・存続が不可欠である。区域住民と連携して新規利用者の開拓を図り、引き続き利用者増加に向けた取組を行う。
小林市	小林―鱒野循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標437人に対して420人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林―岡原循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標894人に対して635人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林―種畜牧場線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標1945人に対して1549人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林―南ヶ丘線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標888人に対して768人であった。	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林―環野―千歳線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標876人に対して1379人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。

協議会名：小林市地域公共交通計画

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内ライダーシステム）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
小林市	小林－運動公園循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標876人に対して673人であった。	運行経路の見直しやダイヤ改正等により、地域のニーズに沿った路線への転換を図る。
小林市	小林－深草循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標396人に対して415人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。
小林市	小林－大出水循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標1160人に対して1255人であった。	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。
小林市	小林－三松循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標5754人に対して6772人であった。	複数の病院や商業施設を循環する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。
小林市	小林－上九瀬線 【上原地区経由】	様々な機会において、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標198人に対して903人であった。	運行日の見直し等を実施したことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。

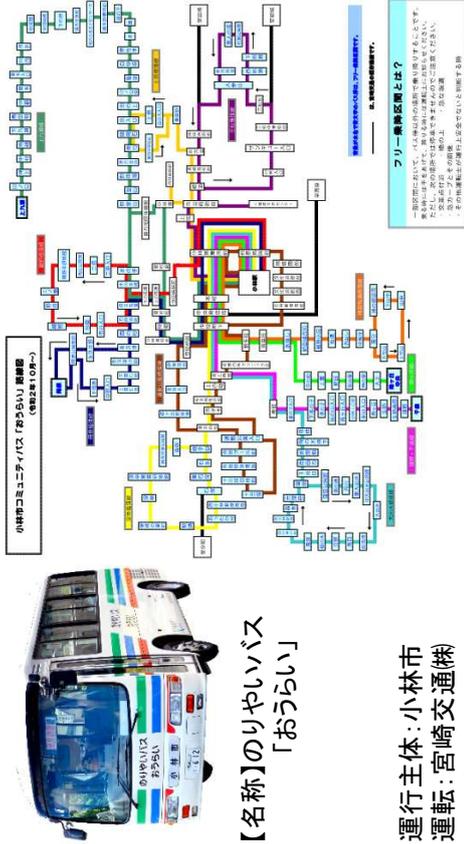
事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月30日

協議会名：	小林市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	小林市地域内確保維持改善計画
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当市の公共交通は、JR小林駅に隣接する小林市地域・観光交流センターを公共交通拠点として、そこから発着する路線バス、コミュニティバス及びJR吉都線により構成されており、宮崎市、都城市、えびの市、高原町へ広がっている。また、宮崎市及び都城市の医療機関・大規模商業施設へのアクセス、通学等、住民の日常生活機能を担う幹線交通網を利用する手段として、高齢者や学生を中心に、生活に必要なものとして利用されている。</p> <p>路線バスが運行していない交通空白地域では、ライダーシステムとしてコミュニティバスが幹線交通網に通じる支線の役割を果たしている。しかし、家用車の普及、65歳以上の免許保有者の増加、少子化による通学利用者の減少により、当市の公共交通機関利用者は減少し続けている。</p> <p>これらの問題を解決するため、地域公共交通確保維持事業を活用し、コミュニティバス路線を確保・維持することで、交通手段を持たない住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

概要

コミュニティバス「おうらい」路線図



【名称】のりやいバス
「おうらい」

運行主体: 小林市
運転: 宮崎交通株

本市は、鉄道および路線バス、コミュニティバスの公共交通機関網が広がっている。

鉄道は、日豊本線に接続する都城駅と肥薩線に接続する吉松駅を結ぶ61.6kmのJR吉都線が市内を通っており、主に通学の手段として利用される。路線バスは、市街地と隣接するえびの市、高原町だけでなく、宮崎県の中核である都城市や宮崎市とを結ぶ重要な幹線系統バス路線としての役割を果たしている。

コミュニティバスは全11路線あり、上記の鉄道及び路線バスに接続し、中心市街地と中山間地域等とを結ぶファイダー路線としての役割を担い、交通弱者の生活にとって必要不可欠な移動手段として機能している。

基礎データ

- 合併状況: 平成18年3月に1市1村(小林市、須木村)が合併
平成22年3月に1市1町(小林市、野尻町)が合併
- 人口: 41,875人(令和6年1月1日現在現住人口)
- 面積: 562.95km²
- 過疎地域等指定: あり(旧須木村、旧野尻町の地区)
- 高齢化率: 37.50%
- 系統数: 11系統(確保維持事業のみ)
- 自治体負担額: 令和2年度: 20,677千円、令和3年度: 18,977千円
令和4年度: 18,404千円
- 協議会開催数: 令和2年度: 2回、令和3年度: 4回、令和4年度: 3回

計画、目標 (Plan)

本市は、市民の多様な移動ニーズに対応すると共に、持続可能な地域公共交通体系の構築を目指している。令和4年度から令和8年度までを計画期間とした「小林市地域公共交通計画(令和4年3月策定)」に基づき、地域公共交通の確保を図っている。なお、この計画は、将来のまちづくりの指針である「第2次小林市総合計画」と密接な連携を図るものである。



生活交通確保維持改善計画等の取組み (Do)

生活交通確保維持改善計画に沿ってコミュニティバスの運行を実施し、路線の維持を図った。利用促進活動として、広報紙に公共交通の記事を掲載した。また、毎年開催される秋まつりのパレードなどにおいて、来場者にコミュニティバス時刻表の配布や、乗り方教室の開催により市民への周知に努めた。



実施状況、目標の達成 (Check)

R4.10～R5.9の目標利用者数を100%とした基準で達成度を示す。※括弧内は、実績利用者
上九瀬線: 107.6% 鱸野循環線: 96.1% 岡原循環線: 71.0% 種畜牧場循環線: 79.6%
(8,355人) (420人) (635人) (1,549人)
南ヶ丘線: 86.5% 環野・千歳線: 157.4% 運動公園循環線: 76.8% 深草循環線: 104.8%
(788人) (1,379人) (673人) (415人)
大出水循環線: 108.2% 三松循環線: 117.7% 上九瀬線【上原地区経由】: 456.1%
(1,255人) (6,772人) (903人) 合計: 109.1% (23,124人)

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少した過去3年間から増加傾向にあるものの、コロナ禍前の令和元年度の利用者数までは回復していない。
※参考: 令和元年度25,783人、令和2年度24,014人、令和3年度22,090人、令和4年度22,345人



今後の課題、対応 (Action)

- ・利用率の低い路線を中心に直しを検討し、ファイダー系統路線の維持・確保に努める。
- ・地域住民のニーズを把握し、要望を路線に反映する。
- ・利用者が固定化されている傾向があるため、その利用者が種々な理由で利用できなくなった場合、利用者数の減少が進んでいくことが想定される。そのため、広報紙やイベントを通じてPRを図るほか、他の交通サービスとの連携強化など、新たな利用者の増加につながる取組について検討を続ける。

(1)コミュニティバスの運行見直しについて

小林市コミュニティバス「おうらい」 令和6年4月1日改正案

改正内容 岡原循環線:便数の見直し

①岡原循環線の状況及び改正理由

<岡原循環線>			10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	利用率
便目	1	7:53	23	20	20	22	47	22	25	25	28	18	24	31	305	48%
	2	11:38	25	13	12	22	32	23	21	40	16	22	14	30	270	43%
	3	17:38	3	2	7	4	6	7	2	5	7	11	2	4	60	9%
(合計)			51	35	39	48	85	52	48	70	51	51	40	65	635	100%

【改正理由】

・3便目の利用率が9%と低いため、便数の削減により効率化を図る。

②便数見直しによる効果

	運行便数 (便)	年間運行便数 (便)	実車走行キロ (km)	キロ単価 (円)	1系統あたり 経常費用 (円)	費用削減効果 (円)	利用者数 (人)※1	1便あたりの輸 送人員(人/便)
R5実績	3	441	9,216.9	104.6	964,179	—	635	1.4
改正後	2	294	6,144.6	104.6	642,786	△ 321,393	605	2.1

・効率化による費用削減効果として約32万円の削減が見込める。

・便数を見直すことにより、1便あたりの輸送人員が2.0人を上回る見込となる。(国庫補助対象路線となる。)

※1 改正後の利用者数は下記のとおり見込んでいる。

●岡原循環線: 1便目と2便目の利用者数の合計 + 3便目利用者数の50%

デマンド交通「おうらい」

乗車実績

速報



7月1日からデマンド交通「おうらい」を実証運行していますが、利用者が少なく目標達成が非常に厳しい状況です。北西方地区にお住まいの皆さま、市街地への移動手段として、ぜひデマンド交通「おうらい」をご利用ください。

7～10月実績

	利用者数	1便あたり
7月	8人	0.13 人
8月	14人	0.22 人
9月	19人	0.26 人
10月	16人	0.22 人

実証運行目標値

1便あたり **3**人

※目標に達しなかった場合は実証運行を終了します

利用方法

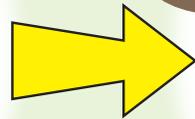
1 電話で予約!

前日までに「出発場所（乗る場所）」「目的地（降りる場所）」「乗車希望時間」を電話で予約してください。
※帰りの便も一緒に予約するとお得です!



2 希望先に送迎

当日、希望した出発場所（乗る場所）に迎えが来ます。乗り合わせながら市街地の公共施設、医療機関、商業施設などの目的地（降りる場所）まで送迎します。



予約連絡先

☎ 27-3630

予約受付は平日9時～16時

運行内容

- 運行期間 令和5年7月～令和6年3月
- 運行日 火曜日と金曜日（祝日連休）
- 利用料金
1回 600円
(同日往復利用の場合 / 1,000円)
※障がい者や小学生は1回 300円
(同日往復利用の場合 / 500円)
- 車両
ジャンボタクシー（定員9人）
- 利用対象者
北西方地区に住所がある方

乗車時間（市街地行き）

- 第1便 9時～9時15分
- 第2便 10時～10時15分
- 第3便 11時～11時15分
- 第4便 13時30分～13時45分

乗車時間（北西方行き）

- 第1便 10時30分～10時45分
- 第2便 11時30分～11時45分
- 第3便 12時45分～13時
- 第4便 15時30分～15時45分

※北西方地区内での移動や、市街地内での移動はできません
※実証運行期間中は、コミバス岡原・深草循環線も並行運行します

デマンド交通「おうらい」 乗降場所

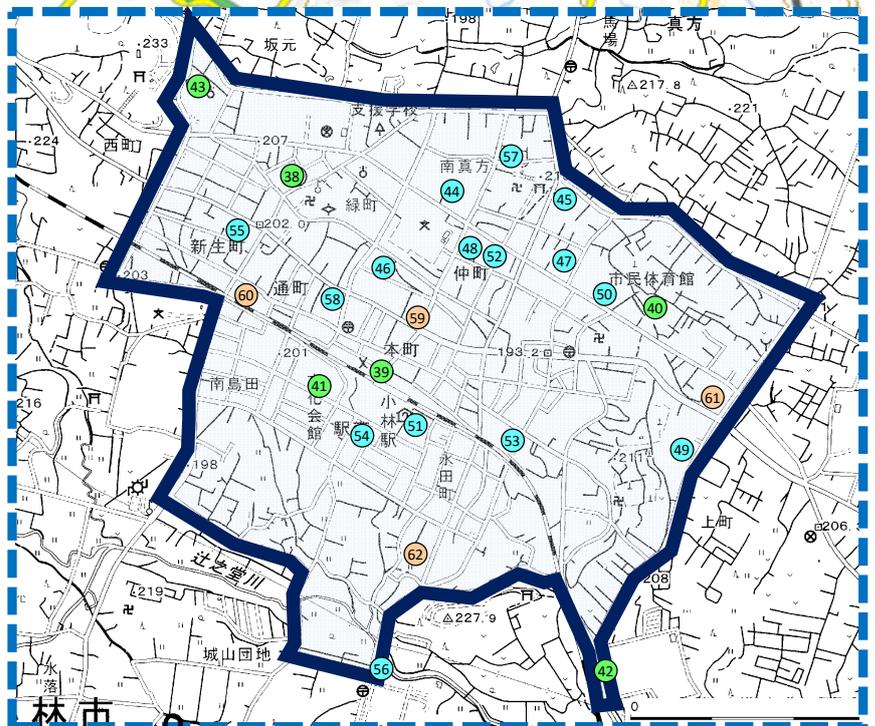
北西方地区乗降場所一覧（ごみ集積場など）

1 種子田原団地（緑ヶ丘ニュータウン）	14 黒仁田公民館	27 高塚（小林フォークリフト前）
2 東種子田（ありの実園入口）	15 永久津公民館	28 北ノ原（西武自動車先）
3 種子田自動車裏	16 上永久津公民館	29 上西ノ原（柞木商店前）
4 種子田公民館	17 森吹（仮屋宅前）	30 忠臣田・大久保・平原公民館
5 石氷橋	18 西永久津・曙公民館	31 西大久保
6 旧小林共立自動車学校駐車場	19 深草営農研修館	32 アーバングolf入口
7 北西一区公民館	20 コミュニティバス 深草バス停	33 北橋谷（ホテル橋谷側）
8 西小林出張所	21 弓場成霊園西側	34 新三本松
9 南鷹塚団地	22 勸請公民館	35 阿久根製茶工場
10 永久井野地区研修館	23 調練場（勸請集乳冷却所先）	36 橋谷地区公民館
11 岡原公民館（岡原営農研修館）	24 勸請（木佐貫樹苗園先）	37 入佐集会所
12 コミュニティバス 岡原バス停	25 中道（水迫水産）	
13 中野ゲートボール場	26 西ノ原農村集会所	



市街地乗降場所一覧 （公共施設、医療機関、商業施設）

38 小林市役所本庁舎
39 小林駅
40 小林市市民体育館
41 小林市文化会館
42 小林市八幡原市民総合センター
43 小林市立図書館
44 池井病院
45 コミュニティバス 池田病院前バス停
46 上田内科
47 沖内科・小児科医院
48 桑原記念病院
49 小林市立病院
50 小林中央眼科
51 小林泌尿器科クリニック
52 整形外科押領司病院
53 コミュニティバス 前原病院前バス停
54 立山整形外科医院
55 ほりファミリークリニック
56 前田内科医院
57 榎内視鏡内科医院
58 よしむら循環器内科クリニック
59 まちなか松栄
60 ディスカウントドラッグコスモス小林西店
61 ディスカウントドラッグコスモス上町店
62 ディスカウントドラッグコスモス細野店



デマンド交通「おうらい」運行実績まとめ

	計画						実績							
	運行日数	運行便数	1便あたりの 目標利用者数	目標者数	運行費		運行日数	運行率	運行便数	便稼働率	利用者数	計画運行1便あ たりの利用者数	実運行1便あたり の利用者数	利用料金 収入
7月	8日	64便	3人	192人	240,000円		4日	50.0%	8便	12.5%	8人	0.13人	1.00人	2,000円
8月	8日	64便	3人	192人	240,000円		5日	62.5%	12便	18.8%	14人	0.22人	1.17人	6,500円
9月	9日	72便	3人	216人	270,000円		4日	44.4%	9便	12.5%	19人	0.26人	2.11人	9,000円
10月	9日	72便	3人	216人	270,000円		4日	44.4%	9便	12.5%	16人	0.22人	1.78人	8,000円
11月	7日	56便	3人	168人	210,000円		7日	100.0%	14便	25.0%	15人	0.27人	1.07人	7,300円
12月	8日	64便	3人	192人	240,000円		8日	100.0%	17便	26.6%	18人	0.28人	1.06人	9,200円
1月	9日	72便	3人	216人	270,000円									
2月	7日	56便	3人	168人	210,000円									
3月	9日	72便	3人	216人	270,000円									
	74日	592便	3人	1,776人	2,220,000円		32日		69便		90人			42,000円

デマンド交通「おうらい」利用分析 (R5.7～R5.11実績)

1. 利用者について

- 利用者の区分は、大人が83.3%と一番多く、身障者(16.7%)の利用も見られたが、小人の利用はなかった。

2. 利用便目について

- 市街地行は1便目(9時～9時15分)の利用が54.1%と半数を超えている。
- 次いで、3便目(11時～11時15分)27.0%、2便目(10時～10時15分)18.9%となっており、4便目(13時30分～13時45分)の利用はなかった。
- 4便目の利用がないことから、市街地への移動需要は午前中のみであることがわかった。
- 北西方行は3便目(12時45分～13時)の利用が51.4%と半数を超えている。
- 他の便は11%～20%とほぼ同数の利用であった。
- 午前中のうちに市街地で要件を済ませ帰宅していることがわかった。

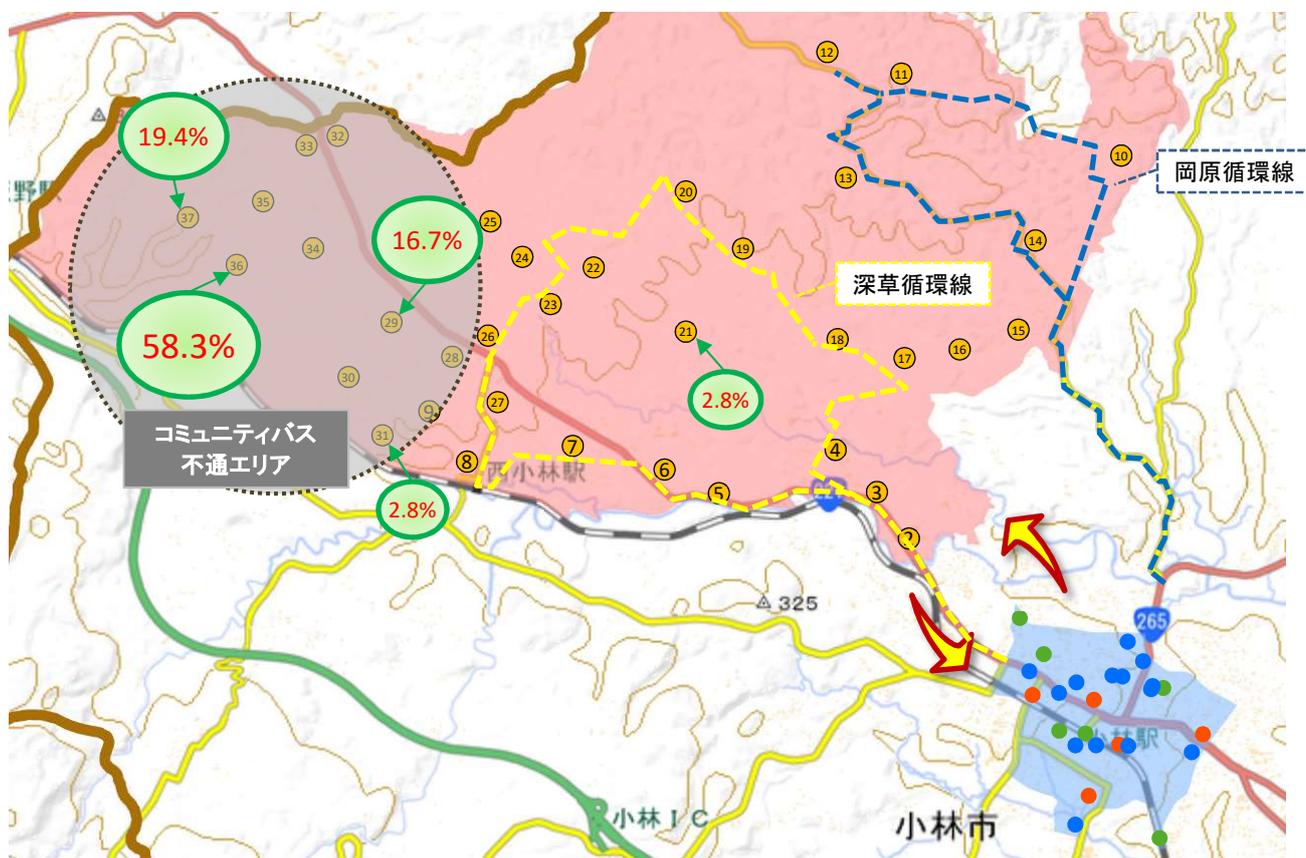
3. 乗降場所について

- 北西方地区の乗降場所は、コミュニティバスの路線がないエリアでの利用がほとんどである。
主な乗降場所: 36橋谷地区公民館58.3%、37入佐集会所19.4%、29上西ノ原(柞木商店前)16.7%
- 実証運行を終了する場合、代替交通の必要性が見えた。

- 市街地の乗降場所は、公共施設・医療機関・商業施設において、満遍なく利用されている。
主な乗降場所: 53整形外科前原病院16.7%、59まちなか松栄16.7%、60コスモス小林西店13.9%
39小林駅11.1%、41小林市文化会館8.3%、57榎内視鏡内科医院8.3%

○利用されていない乗降場所があるものの、利便を維持するため、引き続き乗降場所として設定する。

※比率は、市街地行・北西方行の乗降利用の合計で算出



小林市デマンド型交通実証運行計画【第2期】(案)

1. 趣旨

近年の全国的な傾向と同様に本市においても、少子高齢化や人口減少の進行、自家用車の高い保有率等により、公共交通機関の利用者数は減少が続いており、現在の地域公共交通を維持していく厳しさは以前よりも増している。

しかし、高校生を中心とした学生、高齢者や障がい者等の移動手段を持たない人にとって、地域公共交通は必要不可欠なものとする。

そこで、令和3年度に策定した「小林市地域公共交通計画」に基づき、公共交通の利便性向上と事業継続の実現を目指し、新たな運行形態への転換可能性を検討するため、デマンド型交通の実証運行を実施する。

また、第1期実証運行（令和5年7月1日～令和6年3月31日）の実績等から判明した運行課題を改善した上で第2期実証運行を実施し、さらなる検証を行う。

2. 第1期実証運行における課題

①デマンド型交通の定着

第1期実証運行の実施に向け、事前または運行開始後においてもあらゆる手段を講じ相当な周知・PRを行ったが、本市で初めての運行形態でもあり、対象地区住民の隅々まで行き届いていない状況があり定着するまで当分の時間が必要と考える。

そこで、実証運行期間を延長し、デマンド型交通の利用方法や利便性を改めて周知することで、新たな利用者の獲得及び目標達成を目指す。

②利用実態に応じた運行内容の改善

第1期実証運行において、多数の利用者が1回の運行に乗り合う機会がみられなかったため、使用車両をジャンボタクシー（定員9人）から小型タクシー（定員4人）に変更することで、運行経費の抑制及び運行効率の向上を図る。

3. 実証運行期間

第1期 令和5年7月1日～令和6年3月31日

第2期 令和6年4月1日～令和6年12月31日

※デマンド型交通の実証運行期間中は、コミュニティバス岡原循環線・深草循環線も併行して運行する。

4. 実証運行計画の内容

(1) 運行方式【変更なし】

道路運送法に基づく区域（エリア）運行

(2) 運行エリア **【変更なし】**

北西方エリア（※コミュニティバス岡原循環線・深草循環線のエリア）

(3) 運行業務及び予約受付・配車管理業務 **【変更なし】**

タクシー事業者に業務委託

(4) 使用車両

車種：~~ジャンボタクシー（定員9人）~~小型タクシー（定員4人）

台数：1台（※必要に応じて予備車両を追加利用）

(5) 運行日 **【変更なし】**

毎週 火曜日・金曜日（祝日運休）

(6) 利用料金 **【変更なし】**

基本料金：1回600円（同日往復利用時 1,000円）

障がい者・小学生：1回300円（同日往復利用時 500円）

(7) 運行時間 **【変更なし】**

9時～16時

▼基本ダイヤ

便	北西方地区での乗車時間 （市街地行き）	市街地部での乗車時間 （北西方行き）
1便	9:00～9:15	10:30～10:45
2便	10:00～10:15	11:30～12:00
3便	11:00～11:15	12:45～13:15
4便	13:30～13:45	15:30～16:00

(8) 乗降場所

北西方地区：ごみ集積所（3742か所）＋コミュニティバスバス停（21か所）

市街地：公共施設、医療機関、商業施設（26か所）

(9) 利用方法・予約方法 **【変更なし】**

利用方法：事前登録制（氏名・住所・電話番号）

予約方法：前日までに電話にて予約

予約受付日：平日（月曜日～金曜日、※祝日は除く）の9時～16時

5. 実証運行期間の目標値【変更なし】

目標指標	目標値	コミュニティバス現状値
1便あたりの利用者数	3人	1.7人

※原則、目標を達成しなかった場合は実証運行を終了する。

小林市デマンド型交通実証運行に係る県タクシー協会との協議 【協議結果】

日時 令和5年12月14日(木)15時00分～

場所 小林市役所 2階第1会議室

《 協議事項 》

(1) 運行状況について

別紙実績まとめを共有した上で課題等を共有

- ・運行してきた上での問題点はないか
- ・これまでいただいた意見や利用者の声など

(2) 次年度の運行について

実証運行の継続について

委託料：1日単価は今年度と同額で問題ないか(別紙見積書参照)

期間：年度途中での終了でも問題ないか

(例)4月～9月の6ヶ月間

運行内容：見直しは必要ないか

(3) 利用促進について

- ・各種総会やサロン等での説明の際に、車両を利用した乗り方教室は実施できないか など

【三和交通の意見】

- ・車両を小型タクシーに変更し、経費を抑える方法も一つ。
- ・帰り(市街地→北西方地区)だけでも、降車場所をフリー等できないか。
⇒出来ると謳うことは出来ないため、運転手の好意・判断において行っていただければ。
- ・予約時間外での問合せ・予約電話があり対応に困った。
- ・パンフレット等を作成し、利用方法を周知するのはどうか。
- ・デマンドの目標設定として3人は非常に困難では。
- ・利用者を増やすために、乗降場所・予約時間・便の時間などの制限を外すことで、利便性を高めるという方法はある。
⇒タクシー事業との競合

サブスク制度（定額制）について

- ・先進地の郡山市はあらゆるデータを用いて金額設定を行っている。
- ・収入は通常利用の7～8割程度になる。
- ・中心市街までの距離が重要になるため、郊外での利用は難しいかも。
- ・郡山観光交通の社長は知り合いであるため、視察等に行きたい場合は繋ぐことができる。内容によっては同伴することも可能。
⇒今後の動向等について情報共有いただき、一緒に勉強させていただきたい。

（4）その他

今回の協議内容を踏まえ企画政策課内で次年度の運行内容について協議し、再度相談させていただくこととなった。

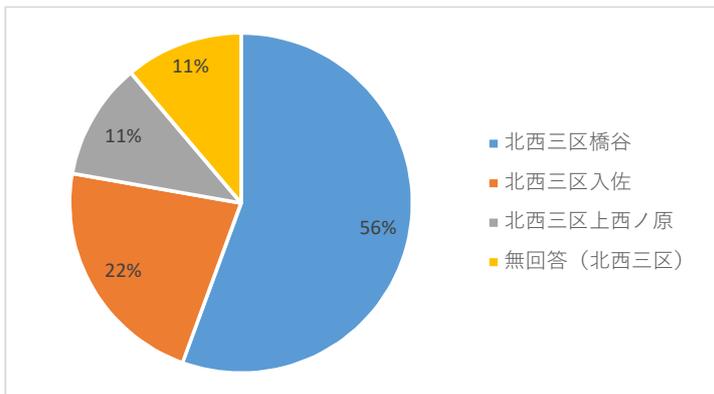
デマンド交通「おうらい」利用者アンケート 回答集計結果

回答者数 9名 (対象者数 16名)

1. あなた自身のことについておたずねします。

問1. あなたのお住まいの地区をお答えください。

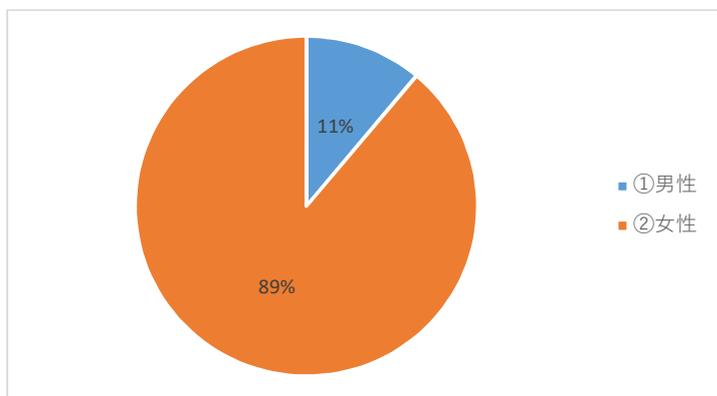
(例：北西三区橋谷 など)



北西三区橋谷	5人
北西三区入佐	2人
北西三区上西ノ原	1人
無回答 (北西三区)	1人

問2. あなたの性別をお答えください。

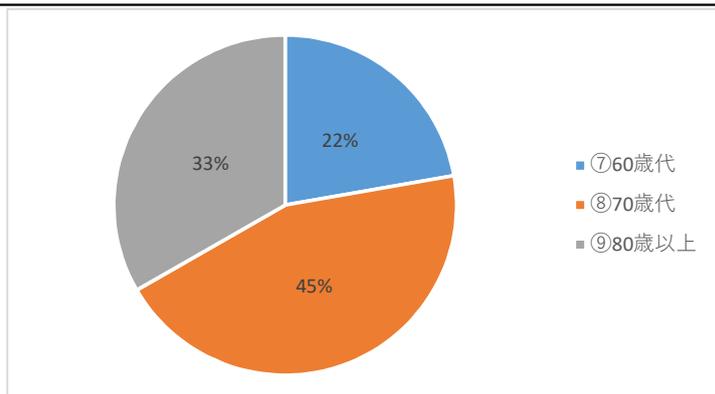
①男性 ②女性



①男性	1人
②女性	8人

問3. あなたの年齢をお答えください。

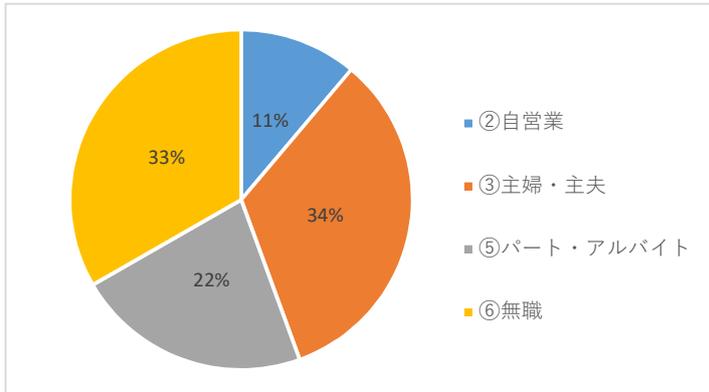
①10歳未満 ②10歳代 ③20歳代 ④30歳代 ⑤40歳代
 ⑥50歳代 ⑦60歳代 ⑧70歳代 ⑨80歳以上



⑦60歳代	2人
⑧70歳代	4人
⑨80歳以上	3人

問4. あなたの職業をお答えください。

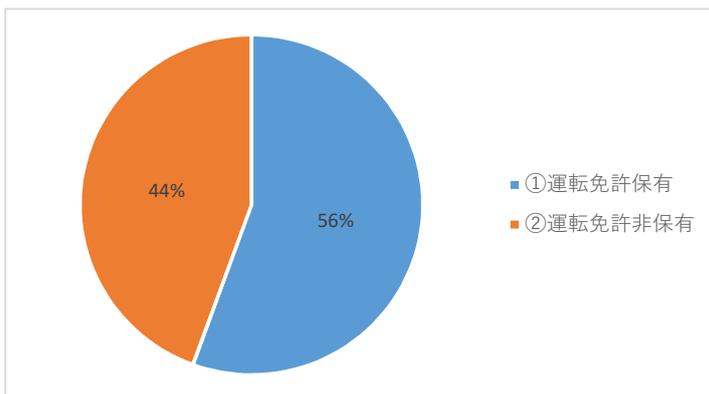
- ①会社員・公務員 ②自営業 ③主婦・主夫 ④学生
 ⑤パート・アルバイト ⑥無職 ⑦その他（_____）



②自営業	1人
③主婦・主夫	3人
⑤パート・アルバイト	2人
⑥無職	3人

問5. あなたの自動車運転免許の所有状況をお答えください。

- ①運転免許を持っている ②運転免許を持っていない

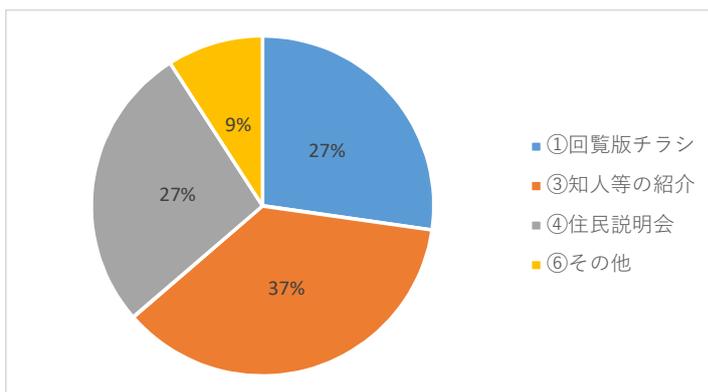


①運転免許保有	5人
②運転免許非保有	4人

2. 利用状況についておたずねします。

問6. デマンド交通「おうらい」の実証運行を何で知りましたか。

- ①回覧版チラシ ②新聞報道 ③知人等の紹介 ④住民説明会
 ⑤市ホームページ ⑥その他（_____）



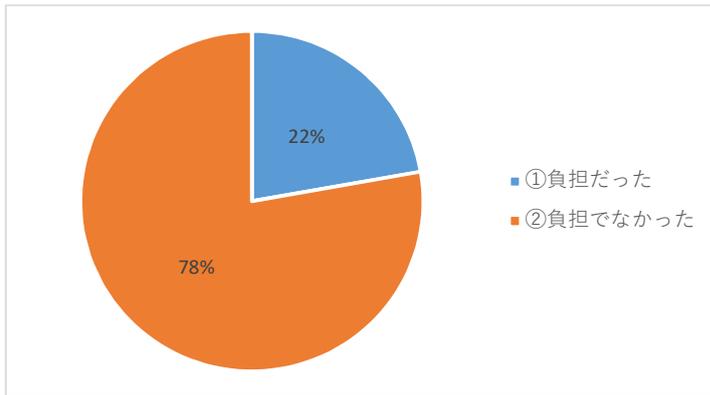
①回覧チラシ	3人
③知人の紹介	4人
④住民説明会	3人
⑥その他の内容	1人

⑥その他の内容

・サロン

問10. 予約を負担に感じましたか。

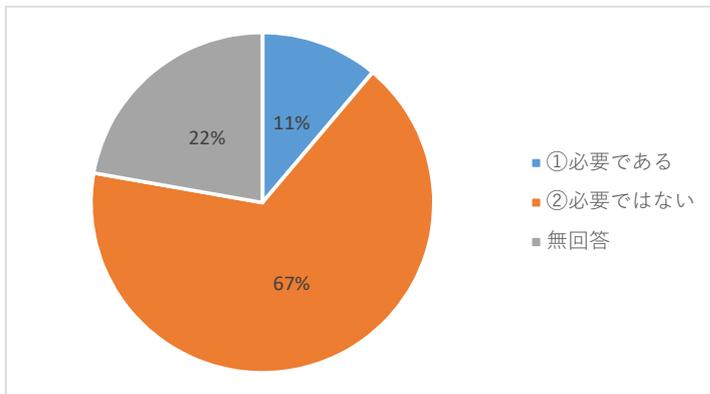
①負担だった ②負担でなかった



①負担だった	2人
②負担ではなかった	7人

問11. インターネット・スマートフォンを利用した予約方法は必要ですか。

①必要である ②必要ではない

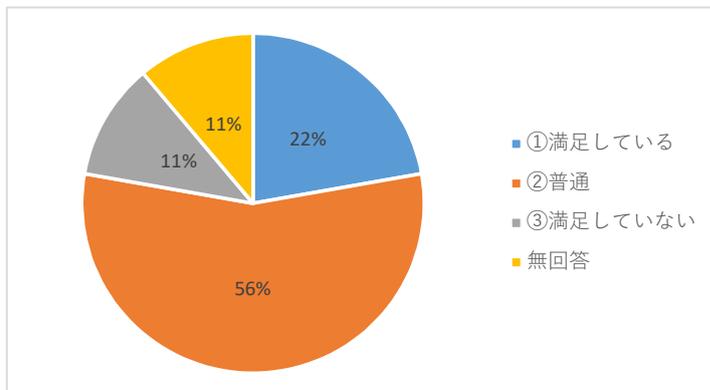


①必要である	1人
②必要ではない	6人
無回答	2人

問12. 運行曜日（火曜・金曜）に満足していますか。

①満足している ②普通 ③満足していない

③の場合 理由（_____）



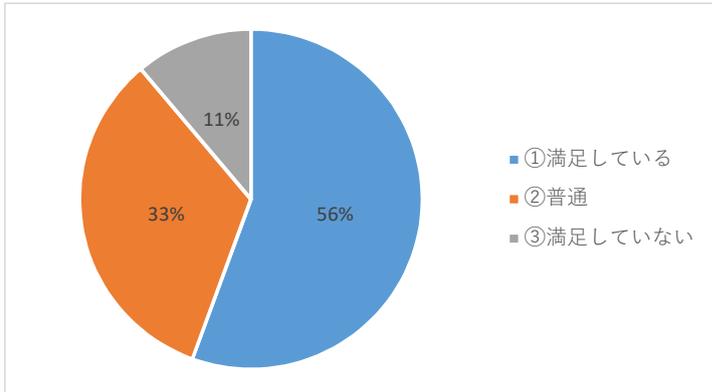
①満足している	2人
②普通	5人
③満足していない	1人
無回答	1人

③満足していない理由

・病院などは曜日があわないので月から金までしてほしい

問1 3. 運行便数（市街地行4便・北西方行4便）に満足していますか。

①満足している ②普通 ③満足していない
 ③の場合 理由（_____）



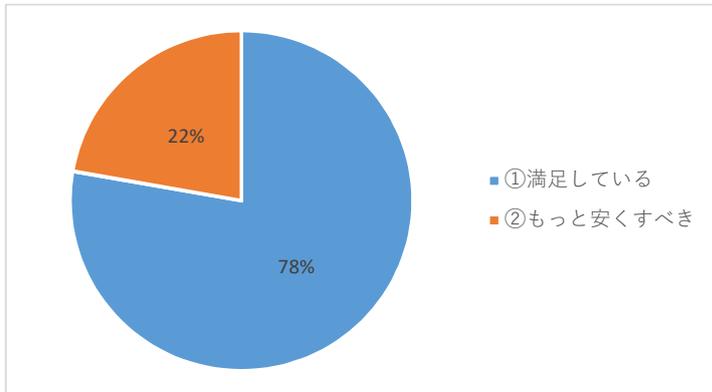
①満足している	5人
②普通	3人
③満足していない	1人

③満足していない理由

- ・行きたいところに行けない

問1 4. 利用料金（1回600円・往復1,000円）に満足していますか。

①満足している
 ②もっと安くすべき（希望金額_____円）
 ③もっと高くすべき（希望金額_____円）
 ④その他（_____）



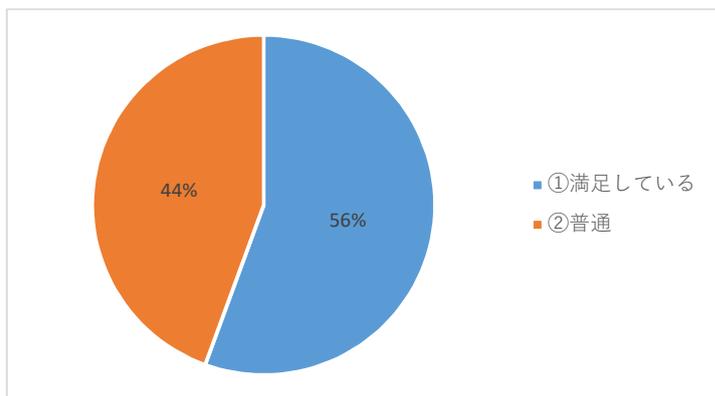
①満足している	7人
②もっと安くすべき	2人

②もっと安くすべき希望金額

- ・往復500円
- ・往復600円

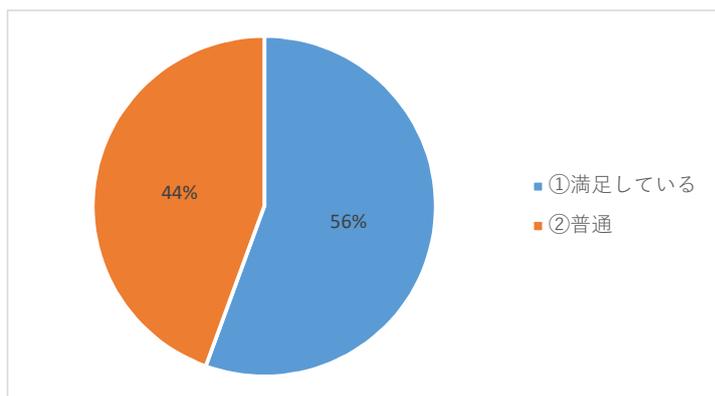
問15. 乗車時間に満足していますか。

【市街地行き】 ①満足している ②普通 ③満足していない
③の場合 希望乗車時間 (_____)



①満足している	5人
②普通	4人

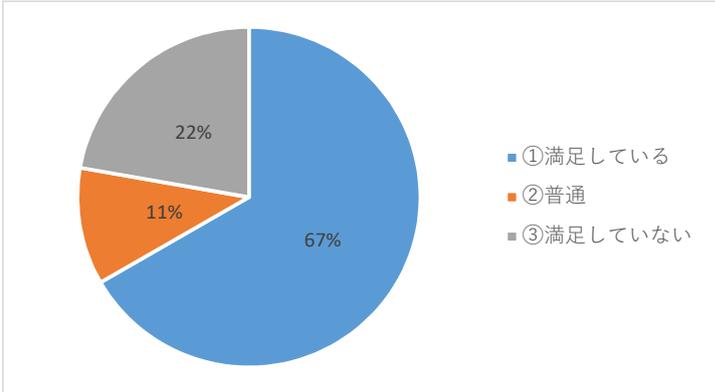
【北西方行き】 ①満足している ②普通 ③満足していない
③の場合 希望乗車時間 (_____)



①満足している	5人
②普通	4人

問16. 乗降場所に満足していますか。

【北西方エリア】 ①満足している ②普通 ③満足していない
 ③の場合 希望乗降場所 (_____)

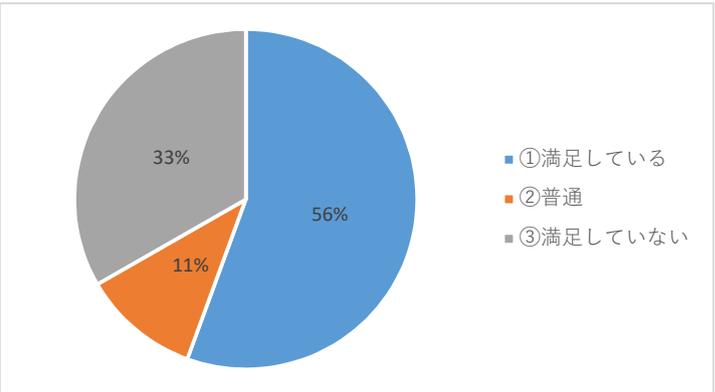


①満足している	6人
②普通	1人
③満足していない	2人

③満足していない理由

- ・ 駅やバス停が遠い地区はもっと多くしてほしい
- ・ もう少し家の近くにして下さい

【市街地エリア】 ①満足している ②普通 ③満足していない
 ③の場合 希望乗降場所 (_____)



①満足している	5人
②普通	1人
③満足していない	3人

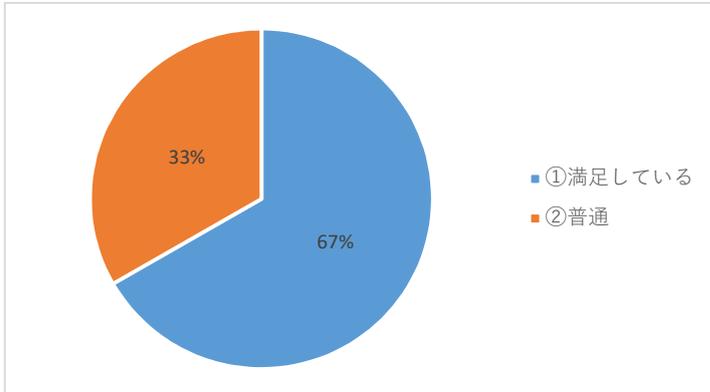
③満足していない理由

- ・ 高崎皮膚科
- ・ もう少し増やしてほしい
- ・ 銀行を利用するので本町エリアがほしい

4. 利用した感想をおたずねします。

問17. デマンド交通「おうらい」を利用した時の感想をお答えください。

- ①満足している ②普通 ③満足していない
 ③の場合 理由 (_____)

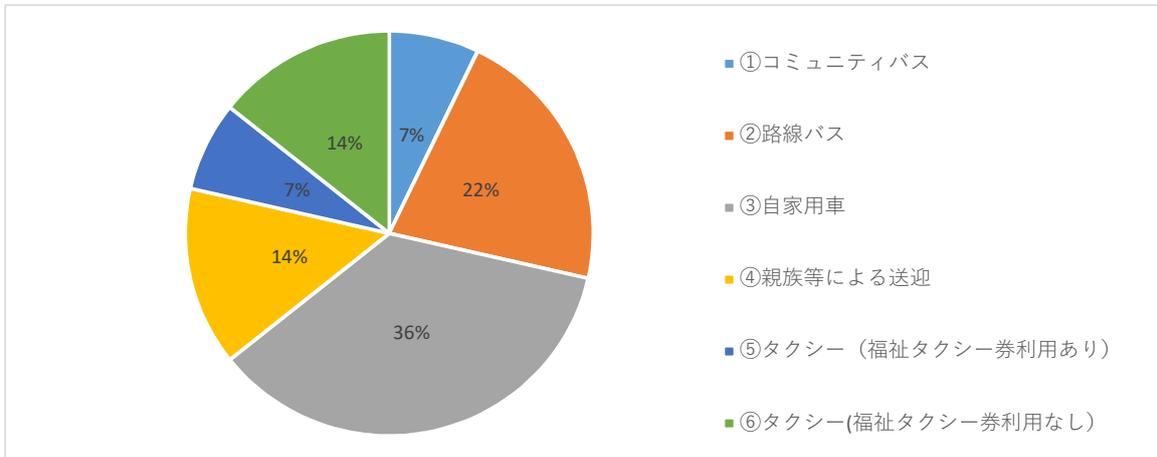


①満足している	6人
②普通	3人

問18. デマンド交通「おうらい」の実証運行前に利用していた移動手段は何ですか。

(複数回答可)

- ①コミュニティバス ②路線バス ③自家用車 ④親族等による送迎
 ⑤タクシー (福祉タクシー券利用あり) ⑥タクシー (福祉タクシー券利用なし)
 ⑦その他 (_____) ⑧移動手段なし



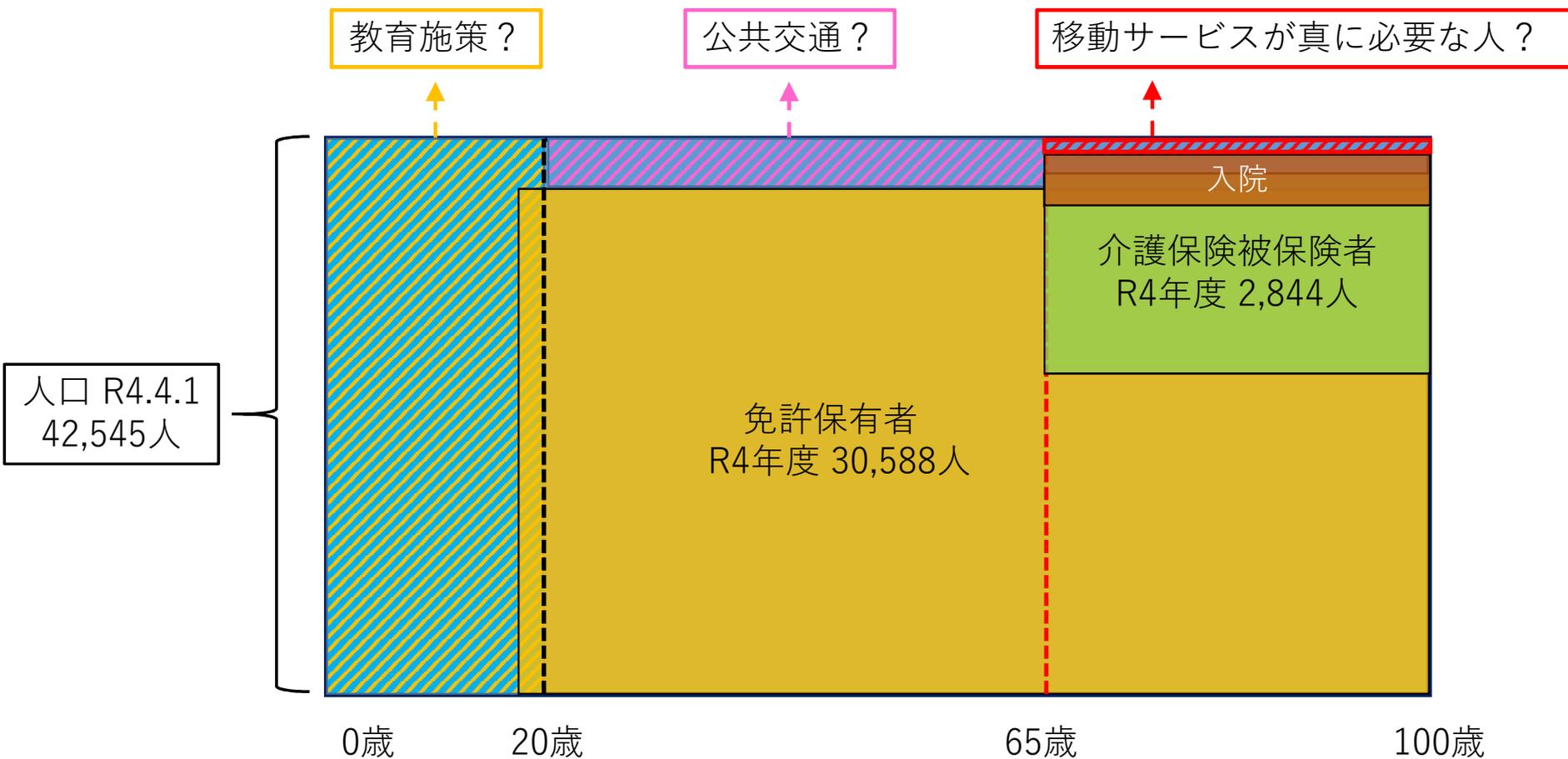
①コミュニティバス	1人
②路線バス	3人
③自家用車	5人
④親族等による送迎	2人
⑤タクシー (福祉タクシー券利用あり)	1人
⑥タクシー (福祉タクシー券利用なし)	2人

①交通と福祉の連携について

●移動支援が真に必要な市民の分析方法

	大項目	小項目	抽出方法	担当課
1	人口	年齢	統計データ	企画政策課
2	運転免許取得状況	市民保有率	県警ホームページ	企画政策課
		65歳以上の保有率	統計データ・県警HPの掛け合わせ	企画政策課
3	自動車保有状況	市民保有率	国勢調査	企画政策課
		65歳以上の保有率		長寿介護課
4	介護保険制度	要支援認定者数		長寿介護課
		要介護認定者数		長寿介護課
		移動支援利用者数		長寿介護課
		福祉タクシー助成		長寿介護課
5	障がい者支援	移動支援必要者数		福祉課
6				
7				
8				
9				
10				

移動支援が真に必要な市民の分析イメージ



目的：移動支援に関するデータを重ね合わせることで、真に移動が必要な市民を抽出し、ニーズに合った効率的・効果的な移動支援の在り方を研究する。